

幼保一元化検討委員会 概略 11月26日(日) 午後1時30分開始

委員長 慶応と共立が合併する。再編の時代である。現存の幼・保は違うが、徐々に近づいている。国がそうしようとしている。体制を変えることは互いに補完することにならねばならない。幼保小の連携は重要である。就学前の発達の連続性、3歳、4歳、5歳は大事である。審議会として形をどうするか意見を出して欲しい。

A委員 民間の意見は繰り返しになるが、公立と民間の子どもに対する内容、職員数とか処遇とか、同じベースにして欲しい。公立はスタンダードとして残す必要ある。行政は同じ体制をとって欲しい、同じ土俵の上に立って欲しい。

委員長 このことは行政の課題として検討してください。

B委員 園長会では、王子幼稚園の園舎がすばらしいので、2年保育でもよいから、これを利用して、三輪崎幼稚園と、含めて新設とで3園でスタートさせて欲しい。

C委員 幼保が近づいて来ている中、幼・保のありかたを押さえてから、数を議論したい。新宮市の子どもがどうなるのかの考えを持たねばならない。また、保育に関して民間と行政が同じテーブルにつくようにして欲しい。

委員長 統合が先に来て、幼・保の連携を言うと、逆かもしれない。幼・保の連携だけでなく、小学校までの学びの連続性、育ちの連続性の事例を紹介する報告が出てきている。幼・保連携は公立だけでなく民間ともやるべきである。

A委員 幼・保の同じ敷地内の解釈で、8時間は保育所で、預かり保育は幼での形は、民間の立場では、最初から保育所に入園すればよいと、スタンダードな形で。連携は教育部分と考えた。預かり保育は幼ではできない。幼保一体化と同じになる。

D委員 幼稚園が2つになると根本的におかしくなる。一元化じゃなくて幼・保を近くにたてる。幼の預かり保育があるとおかしくなる。

C委員 基本的には幼・保は敷地内に。その中で、子どもたちをどう育てるのか考えないと。子どもたちにいいことを民間・公立がお互いに議論をそろえ一つのいいものを作らないと。

委員長 そういうところから子ども園が出てきている。

B委員 太地町では公立の保育所と幼稚園が隣接していて、4時間、8時間の選択で一緒の活動を実施している。

A委員 太地町はやっていけるが、今の段階では新宮では無理。民間が不利になる。将来的には、民間保育園も5歳児を受け入れることになる。幼稚園の形はなくなると思う。市の財政も大変だから、スタンダードと割り切って考えるなら、1つがいいと思う。幼・保の一元化、将来的には今の保育園は子ども園をするしかない。問題はなくなる。

委員長 幼稚園教育の充実をやると、民間もよりよい方に見直しが必要となり、双方が動く。一足飛びに形だけを考えられないから、柔軟に体制を変えていかねばならない。

A委員 民間7園がすべて5歳児保育を実施するのは無理であるが、その際の行政のバックアップについては、各園が集まり、同じテーブルのもと、行政との話し合いが必要である。

D委員 民間のことを考えた場合、3年間の幼稚園を(旧新宮地区に)2つ作ることは人数が問題になる。スタンダードを作る意味において、1つに集中すべきである。

E委員 保育所は家族的な小規模で運営したい。2所希望する。

委員長 子どもは葛藤しにきているので、小規模にする必要は無い。将来的には、保育所は人材を活用して、子育てセンター・地域の教育力・休日保育・病児保育・カウンセリング等保育に関する情報を提供する役目をもつべきである。

C委員 1園なら3年保育はよい。3年保育を始めるなら準備をしないと。

B委員 来年すぐに始まるのではないので、今後、研修、連絡を密にして準備していきたい。

委員長 3歳児は大事である。成果として、幼・保のいい競い合いができれば。縦割りである。兄弟が一緒に育つので、保育は難しい。

F委員 幼・保の人事交流を活発に望む。

A委員 民間でも、同時スタートとして5歳児の受け入れを作っていきたい。行政のバックアップがあればすぐできます。公立の幼稚園は1園をスタンダードとして残す必要がある。

委員長 公立の幼稚園・保育所の数をそれぞれ、検討してください。

事務局 次回は12月17日(日)午後1時30分からお願いします。
午後4時、会議終了。